

令和元年度 訪問リハビリテーション交流会報告書

【日 時】令和1年11月16日（土）14:15～16:40

【場 所】山形ビッグウイング 402会議室

【テーマ】訪問リハビリテーションの評価ツールを考える

～現状把握と課題の共有～

【内 容】所属事業所によって法的な違い（利用方法の違いや書類の違いなど）が存在し、発表者の情報提供とグループワークを通して相互理解を図る。評価については発表者の情報提供とグループワークを通して現状の把握（評価ツールの書式の有無や評価内容の違いなど）や課題を共有し、今後の理想について意見交換を行った。

【発表者】「事業所の違いについて」3名

訪看まいづる 渡辺氏、山形徳洲会病院 後藤氏、ハイマート福原 菅野氏

「訪問リハの評価について」3名

訪看ハローナース 阿部氏、高島病院 難波氏、川西コロニー 吉田氏

【参加者】19名

【運 営】黒田、石川、榎本、難波、大泉、渡辺、後藤、芦埜、阿部

【考 察】

参加者のほとんどは訪問リハビリテーションに携わっているセラピストであった。

事業所の違いでは、日頃から疑問に感じていたことも含め意見交換ができ、相互理解が進みました。評価については、各事業所やセラピスト個人によって評価の書式や使用方法に差があることが解りました。理想の評価ツールについてもグループワークにて具体的な意見交換ができ、今後に繋がる話し合いとなりました。今回は人型付箋なども使用したことで話がしやすい場が作れ、活発な意見交換ができて大変有意義な研修になりました。

